



江北二丁目の五色堤公園内にある栽櫻記碑  
 「昭代楽事」所収の栽櫻記を掲げた石碑（写真右側）。江北二丁目57番から現在地に移転。

# 足立史談

第399号

2001年5月15日  
 足立区教育委員会  
 足立史談編集局  
 足立区立郷土博物館内  
 〒120-0001  
 東京都足立区大谷田5-20-1  
 TEL 03-3620-9393  
 FAX 03-5697-6562  
 <13-337>

## 「昭代楽事」の人々

第2回 矢沢幸一郎

「栽櫻記」まではすべて漢文で綴られ、江北の人々の文化水準の高さを披露しているようである。このあと短歌・俳句と続いている。

※（ ）内は筆者注記

江北村式千式百十六間三合三勺  
 西新井村壹千間  
 櫻樹総数三千式百式拾五本  
 左種類如  
 （七八種類の名前をすべて掲げている）

- |                                                       |                      |
|-------------------------------------------------------|----------------------|
| 短歌                                                    | 熊谷堤に櫻を植えし事につきて（短歌前文） |
| 短歌                                                    | 錦織 瓢 在東京             |
| 短歌                                                    | 藤田 信 在千住             |
| 短歌 二首                                                 | 清水勇太郎 在千住            |
| 短歌                                                    | 松原 新 千住人             |
| 短歌                                                    | 市川 翠雪 江北人            |
| 短歌 二首                                                 | 吉田 松軒 在江北            |
| 短歌                                                    | 藤井 東邨 江北人            |
| 短歌 二首                                                 | 瀧口 臨海 在江北            |
| 短歌                                                    | 清水 江北 江北人            |
| 短歌                                                    | 佐藤九十九 江北人            |
| 短歌                                                    | 小宮 幾世 江北人            |
| 短歌                                                    | 江川 井蛙 江北人            |
| 短歌 二首                                                 | 莊 久子 佐藤益太郎翁妻         |
| 短歌                                                    | 尾上 眞路 埼玉人            |
| 俳句前文付き（五句）                                            | 岡田健次郎 埼玉人            |
| 其彭、華遊、悦子、梅子、江北（二句）、                                   |                      |
| 雲樵（三句）、三省、福八内、松花、積雪、                                  |                      |
| 祐宣、小天狗、猷甫、小石、松月、芳樹、                                   |                      |
| 豊詠、三省（二句）、香山、霞山、竹麿、                                   |                      |
| 如一、野生、笑山、狸楽、柳芳、芳笑、                                    |                      |
| 義詮、二徳、祐宣、梅賀、金羅                                        |                      |
| 昭代楽事畢（ここまでで本文は終わる）                                    |                      |
| 昭代楽事跋 明治廿四年六月 文莊石川兼六                                  |                      |
| 昭代楽事自跋明治廿四年六月 淡如清水謙吾                                  |                      |
| （跋文は再び漢字で、序文と同じにやや大きめの活字が使われている。さらに興味深い次の「付録」が続いている）。 |                      |
| 付録                                                    |                      |
| 自江北至西新井、堤長三千式百式拾六間三合三勺                                |                      |

有志者醸金及人名（人名略）  
 元鹿濱村 （五六名 六八円三拾銭）  
 元鹿濱新田 （一八名 九円五銭）  
 元加賀皿沼村 （二二名 七円五拾銭）  
 元堀之内村 （一七名 二九円五拾銭）  
 元沼田村 （二八名 九円）  
 元宮城村 （二〇名 三円）  
 元小台村 （六名 一三円五拾銭）  
 元高野村 （五円）  
 元本木村 （四拾円）  
 元領家村 （二名 二円）  
 （総計金額は計算してみると合わない）  
 以上が「昭代楽事」の全項目次である。  
 何より注目したいのは、江北村の人々の文学作品集であるということである。  
 江北文化の水準を示し、桜への思いを込めたこの一冊は、今日風に言えば「村おこし」の一大イベントでもあったと思える。かつての賑わいを伝え聞くにつけ、当時の人々の旺盛な息吹きは、やはり村長自らの活動に刺激されたからでもあるだろう。  
 江北から本木まで、今では高速道路の下になっているが、延々と桜が咲く光景を思い描くだけでも心が浮き浮きしてくる。  
 「付録」に記録されているところによれば江北村地内に二二二六本、本木村地内には一〇〇〇本が植えられたという計算になる。にもかかわらず江北村関係の人々の醸金が圧倒的であることは、「江北の桜」とも言われる所以であろうか。今年もまた桜は人々の目を楽しませてくれた。

